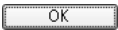
詳細設定ガイド

無線LAN ブロードバンド　ルータ

CG-WLBARGE

Y613-09508-02 Rev.A

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-WLBARGE を示します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　]	[　] で囲んである文字は画面上のボタンを示します。 例：OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉
Windows .... Microsoft® Windows® Operating system
Windows XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating systemおよび
Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows 98SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

PART 1 こんなときにはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または本書の「パソコン、モデムと本商品を有線で接続する」（P.18）の手順を行ってからお読みください。

設定画面を起動するには

本商品の設定画面を使用するにはWebブラウザが必要です。また、設定時には本商品に接続されているパソコンのうちの1台から設定作業を行い、WebブラウザにはInternet Explorer 5.5 以降をご利用ください。その他のWebブラウザでは、正常にセットアップが行えない場合があります。

●パソコンのTCP/IPを設定する

本商品の設定画面を起動するには、接続するパソコンのネットワークの設定が次のようになっている必要があります。

・TCP/IPの設定がIP自動取得になっていること。
・ネットワークアダプタが正常に動作していること。

次の手順では、パソコンのTCP/IPの設定方法とネットワークアダプタの確認方法をご紹介します。また、この手順はLANケーブルを使って本商品とパソコンを接続する場合を例としています。

●Windows XPの設定方法

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

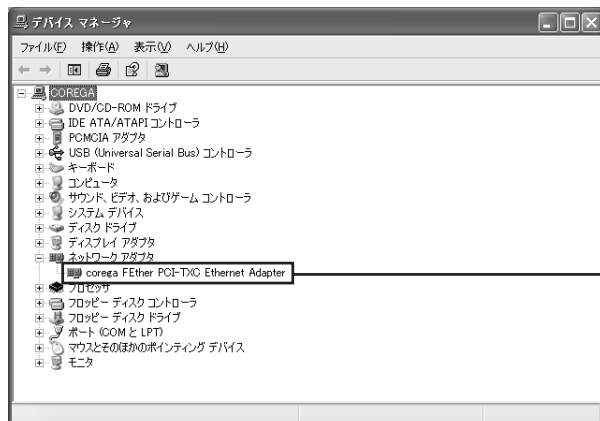
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2 「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

注意　「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

5「デバイスマネージャ」を閉じます。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1　「スタート」－「コントロールパネル」の順に選択します。

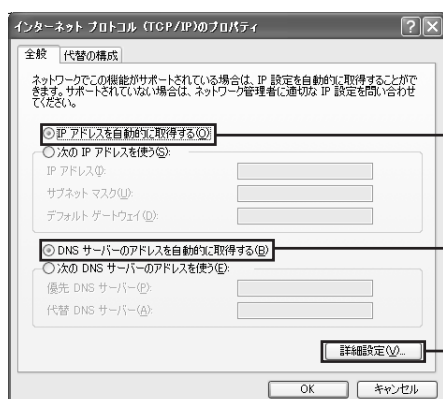
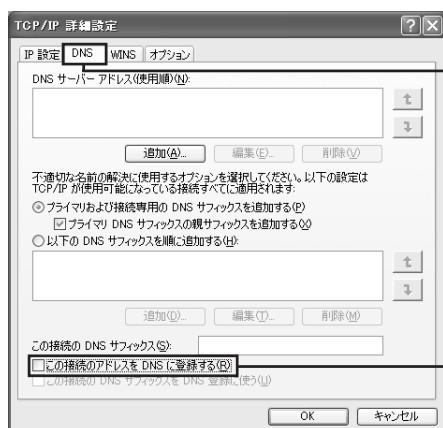
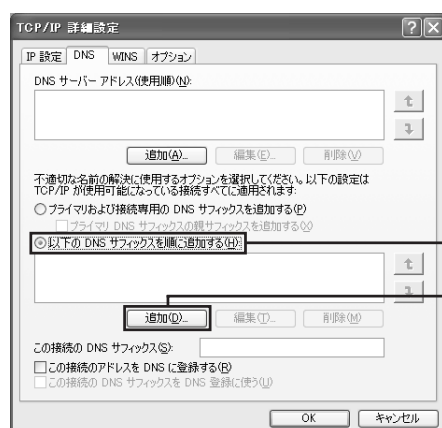
2　「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3　「ネットワーク接続」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

5　「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが入っているか確認します。

6　「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7　「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8　「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.16）に進みます。

●Windows 2000で利用する

この作業は「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

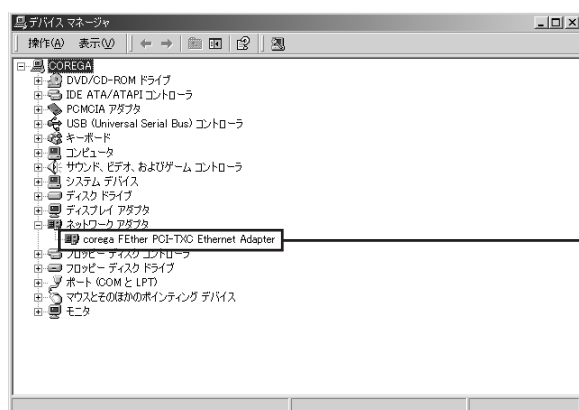
パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2 「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

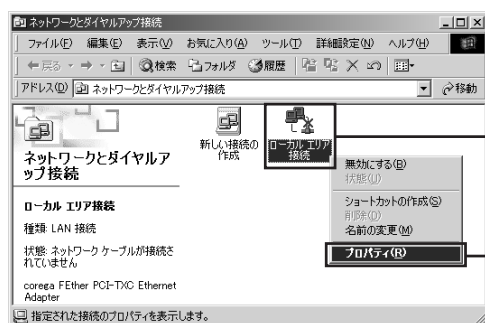
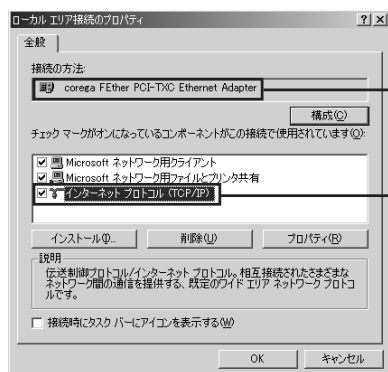
3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

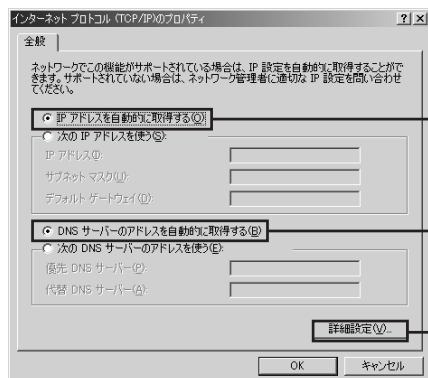
注意

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

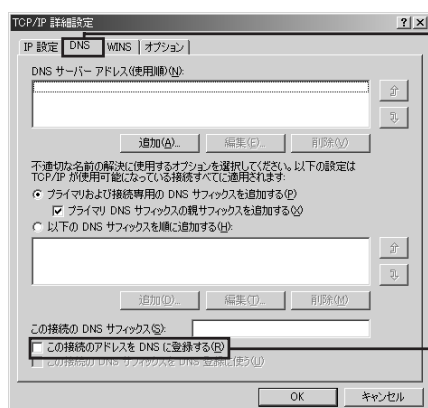
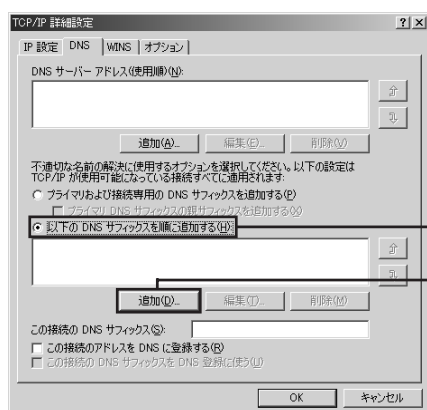
5 「デバイスマネージャ」を閉じます。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1　「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

メモ　**「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.11）をご覧ください。**

4　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5　「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

注意 **プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.16）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

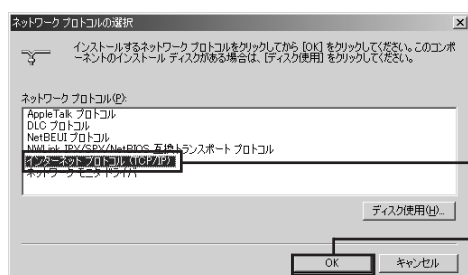
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」の［インストール］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」の「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.9）からの設定を行ってください。

●Windows Me／98SEで利用する

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか､｢デバイスマネージャ｣で確認します。

1　デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　｢デバイスマネージャ｣タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から｢ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・｢Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ｣､｢ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

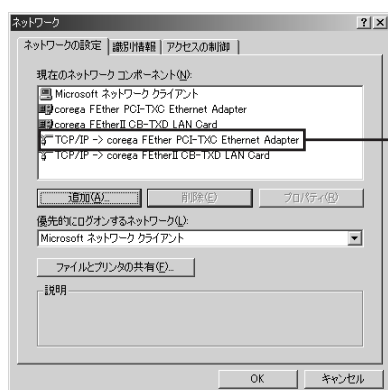
ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

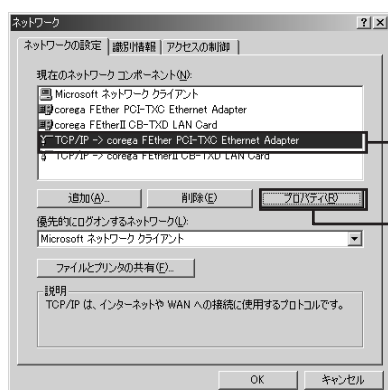
2　「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

メモ

Windows Meの場合､よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。

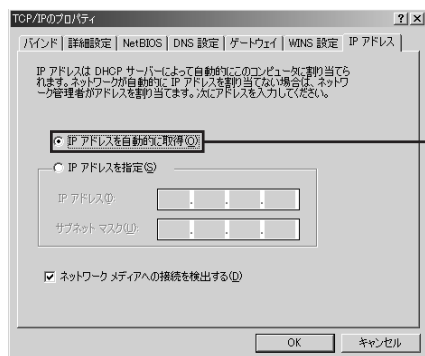
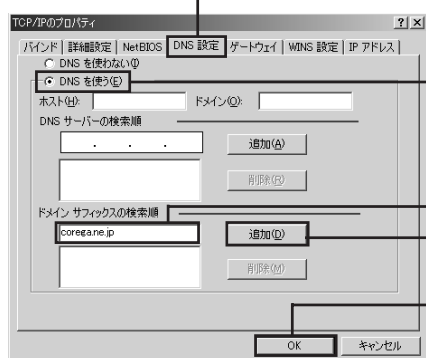
3　「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

※画面は例です。
・「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.15）をご覧ください。

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

①ご使用のネットワークアダプタ名が表示されているものを選択します。
②［プロパティ］をクリックします。

メモ

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。

5 「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブの「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

メモ WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（もしくはフロッピーディスクドライブ）に Windows の OS 用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Web ブラウザの設定をする」（P.16）に進みます。

■TCP/IP をインストールする

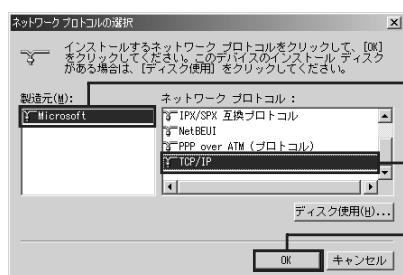
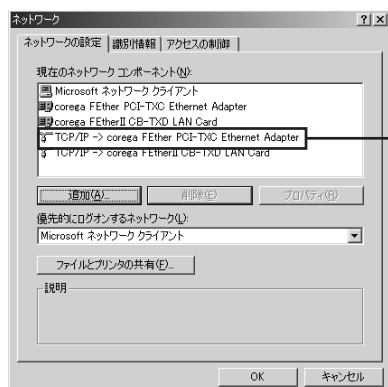
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の［追加］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」の「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確認します。

※画面は例です。
・「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

- **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**
- **WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（もしくはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。**

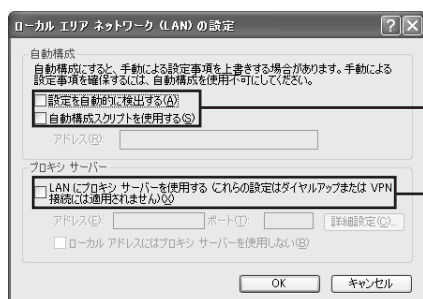
インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.13～）からの設定を行ってください。

●Webブラウザの設定をする

本商品を利用できるようにWebブラウザの設定を行います。ここではInternet Explorer 6.0の場合の設定方法を例に説明しています。その他のWebブラウザの場合は、Webブラウザのヘルプなどをご覧いただき、設定してください。

1. Internet Explorerを起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。
2. 「インターネットオプション」が表示されたら「接続」タブを選択します。

   メモ このとき「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることをご確認ください。

3. ［LANの設定］をクリックします。
4. 「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LANにプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5. ［OK］をクリックします。
6. 「インターネットオプション」の［OK］をクリックします。

次に「パソコンと本商品を接続する」（P.17）に進みます。

●パソコンと本商品を接続する

■本商品を設置する場所について

・本商品に同梱されている「安全にお使いいただくためにお読みください」をご覧いただき、使用時の注意などについてご確認ください。
・本商品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
・本商品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属のマグネットや壁掛け用ネジセットを本商品に取り付けることで、壁やOA家具などの壁面に取り付けることができます。取り付け方法は、本商品に同梱されている「かんたんスタート」（CD-ROM）をご覧ください。

〈設置に適した場所〉

・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

〈設置に適さない場所〉

・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本商品の電源を入れるには

〈本商品の電源の取り方〉

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

〈本商品の電源の入れ方／切り方〉

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・**本商品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。**
・**ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。**

■パソコン、モデムと本商品を有線で接続する

有線接続をする場合や二台目以降のパソコンを設定する場合は、本商品とモデム・パソコンなど、ネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。

- **本商品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。**
- **本商品とパソコンを接続するLANケーブルは、100BASE-TXで接続する場合はカテゴリ5以上、10BASE-Tで接続する場合はカテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。**
- **無線での接続方法は、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。**

1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本商品背面のLANポートにLANケーブルを接続します（①）。

3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します（②）。

4 本商品背面のWANポートに付属のLANケーブルを接続します（③）。

5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

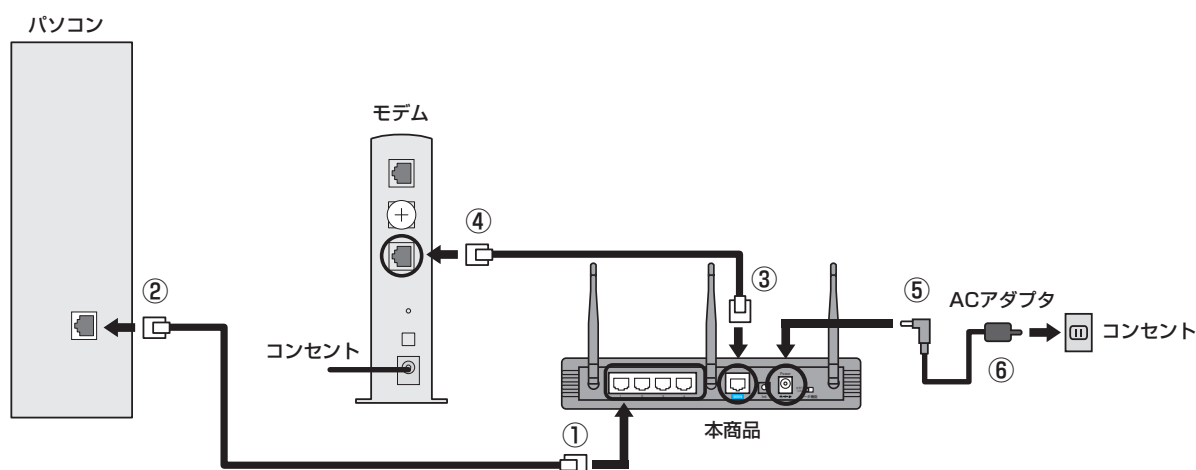
6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本商品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します（⑤）。

8 本商品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます（⑥）。本商品前面のPower、WAN、Wirelessの各LEDが点灯または点滅していることを確認します。

本商品の電源を入れた直後は、ファームウェアの読み込みのためStatus LEDが点灯します。正常に起動が完了するとStatus LEDは消灯します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本商品前面の、ケーブルを接続したポートのLAN LEDが点灯していることを確認します。

●設定画面を起動する

・本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続して設定することをおすすめいたします。
・設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止、起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

このとき手順 3 の画面が表示された場合は、そのまま手順 3 へお進みください。

2　アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

ルータ機能が「無効」に設定されている場合は、変更した IP アドレスを入力します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、[ログイン] をクリックします。

・工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
・ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名 (ユーザ名)、パスワードを変更したいときは」（P.31）をご覧ください。

4　設定画面が起動します。

無線LANセキュリティを設定するには

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入される恐れがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

●本商品で設定できるセキュリティ機能

【SSID（Service Set IDentifier)】
無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。ESSIDと呼ばれることもあります。同じSSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のSSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【ステルスAP】
本商品のSSIDを無線LANアダプタから見えなくすることにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

【アクセス制限】
本商品に無線LANでアクセスすることができる無線LANアダプタをMACアドレスで制限します。PCデータベースにMACアドレスが登録されていない無線LANアダプタは本商品に接続できなくなります。

【WEP（Wired Equivalent Privacy)】
通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bit、152Bitの３種類があり、ASCII文字（半角英数記号）やHEX（16進数：0～9、a～f）を入力し暗号キーを作成します。

【WPA（Wi-Fi Protected Access)】
通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。家庭でご利用できる「WPA-PSK（Personal)」と企業内でご利用できる「WPA-EAP（Enterprise)」の２種類の設定ができます。

【WPA2（Wi-Fi Protected Access 2)】
WPA2は、Wi-Fi Allianceが2004年９月に発表したWPAの新しい規格です。米標準技術局（NICT）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128～256 Bitの可変調キーを利用しての強力な暗号化が可能です。その他の仕様についてはWPAとほとんど変わらないので、WPAとWPA2との混在した環境で利用できます。

【802.1x認証】
無線ネットワークを確立する際に、認証サービスを受けるセキュリティ設定です。正しい認証キーでアクセスすると認証サーバが正規のユーザであることを承認し、通信が可能になります。企業内のネットワークで利用されます。

- セキュリティ設定は、通信相手の機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。
- WEPとWPAまたはWPA2との併用はできません。

●SSIDを設定する

SSID を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b 設定」の順に選択します。

2　「ネットワーク名（SSID）」に設定したい文字列を半角英数字で入力します。

半角英数記号で最大 32 文字まで入力できます。

3　［設定］をクリックします。

4　画面上の［ログアウト］をクリックします。

5　本商品に設定した SSID と同じ文字列を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

無線 LAN アダプタの SSID の設定については、ご使用の無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

●ステルスAPを設定する

ステルス AP を設定すると、本商品の SSID を無線 LAN アダプタから検索できなくなります。ステルス AP を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b 設定」の順に選択します。

2　「ステルス AP」を「有効」にします。

3　［設定］をクリックします。

4　画面上の［ログアウト］をクリックします。

本商品と同じ SSID を設定している無線 LAN アダプタからは、本商品の SSID を確認することができます。

●アクセス制限を設定する

本商品に接続できる無線LANアダプタを、MACアドレスで制限することができます。アクセス制限を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「アクセス制限」の順に選択します。

2　「MACアドレスフィルタリング」を「有効」にします。

3　下に表示されるクライアントリストの設定したいパソコンにチェックマークを入れます。

- **設定の詳細については「アクセス制限」（P.59）をご覧ください。**
- **アクセス制限をしたいパソコンがクライアントリストに表示されていない場合は、「PCデータベース」（P.55）でパソコンを手動で登録してください。**

4　設定が終了したら［設定］をクリックします。

5　画面上の［ログアウト］をクリックします。

●暗号化設定をする

無線LANの通信内容を暗号化して、傍受されても内容を解析されにくくすることができます。暗号化を設定するには、次の手順を行います。

- **本商品に暗号化を設定した場合、本商品に接続する無線LANアダプタにも同じ暗号化を設定する必要があります。**
- **WEPとWPAまたはWPA2との併用はできません。**

■WEPを設定する

1　設定画面を起動し、「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/bセキュリティ設定」の順に選択します。

2　認証方式から「Open System」または「Shared Key」を選択します。

3　暗号方式から「WEP」を選択します。

4　暗号化から「64 Bit-16進数（0～9/a～f）10桁」、「128 Bit-16進数（0～9/a～f）26桁」、「152Bit-16進数（0～9/a～f）32桁」、「64 Bit-ASCII（半角英数記号）5文字」、「128 Bit-ASCII（半角英数記号）13文字」、「152Bit-ASCII（半角英数記号）16文字」のいずれかを選択します。

5　キー1～キー4に手順4で選択した文字数で任意の文字列を入力し、そのうちの1つを選択します。

- **ASCIIで入力できる半角英数字は、0～9、a～z、! ” # $ % & ’ ( ) * + . - , / : ; < > ? @ [¥] ˜ ^ _ { ¦ } ˜です。**
- **「128 Bit」、「152Bit」を選択した場合は、キー1のみ使用することができます。**

6　設定が終了したら［設定］をクリックします。

8　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線LANアダプタに設定します。

メモ　**無線LANアダプタの暗号化の設定は、お使いの無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。**

■ WPA-PSK、WPA2-PSKを設定する

1　設定画面を起動し、「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/bセキュリティ設定」の順に選択します。

2　認証方式から「WPA2-PSK」または「WPA/WPA2-PSK」を選択します。

3　暗号化から「自動（AES/TKIP)」、「AES」のいずれかから選択します。

4　WPA共有キーの「ASCII文字（8～63文字)」を選択し、入力欄に半角英数字記号で8～63文字の任意の文字列を入力します。

メモ　**入力できる半角英数字は、0〜9、a〜z、! ” # $ % & ’ ( ) * + . - , / : ; < > ? @ [¥] ˜ ^ _ { ¦ } ˜です。**

5　設定が終了したら［設定］をクリックします。

6　画面上の［ログアウト］をクリックします。

7　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線LANアダプタに設定します。

メモ　**無線LANアダプタの暗号化の設定は、お使いの無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。**

■ WPA-EAP、WPA2-EAPを設定する

1　設定画面を起動し、「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/bセキュリティ設定」の順に選択します。

2　認証方式から「WPA2-EAP」または「WPA/WPA2-EAP」を選択し、［RADIUSサーバ設定］をクリックします。

3　「RADIUSサーバIP」に認証サーバのIPアドレスを入力します。

4　「RADIUSサーバで使用するポート」に認証サーバで使用するポート番号を入力します。

5　「シークレット」に共有シークレットを入力します。

6　設定が終了したら［設定］をクリックします。

7　画面上の［ログアウト］をクリックします。

8　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線LANアダプタに設定します。

メモ　**無線LANアダプタの暗号化の設定は、お使いの無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。**

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため、本商品にUPnP設定やDMZ設定などを行う必要があります。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応しているネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応しておりますので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば自動的に本商品の設定が行われます。本商品のUPnPの設定は、次の手順を行います。

1. 設定画面を起動し、「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。
2. 「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。
3. 設定が終了したら［設定］をクリックします。
4. 画面上の［ログアウト］をクリックします。

- **WindowsのUPnP（ユニバーサル プラグ アンド プレイ）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。本商品のUPnPを設定する前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。**
- **UPnP機能はWindows XPでご使用いただけます。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnPに対応していないネットワークゲームの場合は、次の手順で設定します。

1. 設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。
2. 「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」（P.55）でパソコンを手動で登録してください。

3. 設定が終了したら［設定］をクリックします。
4. 画面上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは代表的なソフトとして、NetMeeting、MSN Messengerを利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、MSN Messenger（Ver.7.0以降）、Windows Live Messenger（Ver.8.0）に対応しています。ソフトの使用方法は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。

MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

●NetMeeting

NetMeeting を使用するには DMZ 機能を使います。次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　「DMZ ホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.55）でパソコンを手動で登録してください。

3　設定が終了したら［設定］をクリックします。

4　画面上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

●MSN Messenger（Ver.7.0以降）／Windows Live Messenger（Ver.8.0）

本商品は UPnP に対応しておりますので、Windows XP で MSN Messenger を利用する場合は、自動的に本商品の設定が行われます。本商品のUPnPの設定を無効にしている場合は、次の手順でUPnPを有効に設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2　「UPnP を使用する」から「有効」を選択します。

3　設定が終了したら［設定］をクリックします。

4　画面上の［ログアウト］をクリックします。

・MSN Messenger は Ver. 7.5 で動作確認しております。
・UPnP 対応 MSN Messenger の対応 OS は Windows XP Service Pack1（SP1）以降です。

また、Windows 2000 で MSN Messenger を利用する場合は DMZ 機能を使います。次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　「DMZ ホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.55）でパソコンを手動で登録してください。

3　設定が終了したら［設定］をクリックします。

4　画面上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

ポート開放するには

●バーチャル サーバを使用する

バーチャル サーバ機能を利用してポートを開放し、外部にサーバを公開することができます。公開するには次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、「詳細設定」－「バーチャルサーバ」の順に選択します。

2　「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。

- **「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PCデータベース」（P.55）でパソコンを手動で登録してください。**
- **設定するパソコンがIP自動取得の場合はIP固定に変更されます。**

3　お使いの環境に合わせて「サービス」を設定します。

「ポート範囲」、「プロトコル」は「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に設定します。

4　設定が終了したら［登録］をクリックします。

5　画面上の［ログアウト］をクリックします。

外部にネットワークカメラ(カメラサーバ)の映像を公開するには

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した画像をインターネット上に配信することができます。その場合は、「PCデータベース」(P.55)、「ダイナミックDNS」(P.53)、「バーチャルサーバ」(P.63)などの設定を行う必要があります。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガのホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、フレッツ・スクウェアの設定を行うと、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。

1 設定画面を起動し、画面左側のメニューから「簡単設定」を選択します。

2 ［次へ］をクリックします。

3 「手動」を選択し、［次へ］をクリックします。

4 「PPPoE（FLET'S シリーズ）」を選択し、［次へ］をクリックします。

5 「接続ユーザーID」、「接続パスワード」、「パスワードの確認」のそれぞれが入力されていることを確認し、［次へ］をクリックします。

6 フレッツ・スクウェアから契約している地域、「東日本」または「西日本」を選択し、［次へ］をクリックします。

メモ **地域を選択すると、フレッツ・スクウェアの接続ユーザー名、接続パスワードが自動的に入力されます。**

7 ［保存］をクリックし、接続テストを行います。

8 テストが正常に行われたことを確認し、［終了］をクリックします。

●複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバ公開などが可能になります。

例：　本商品の元の設定…IPアドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダからの情報
IP アドレス	XXX. ○○○ . □□□ .113 ～ XXX. ○○○ . □□□ .120
サブネットマスク	255.255.255. ◆◆◆
DNS サーバ	12.34.56.12

設定するパソコンのIPアドレスを「XXX.○○○.□□□.115」と設定したい場合

1　設定画面を起動し、「WAN 側設定（インターネット）」－「PPPoE」を選択し、[セッション-1 設定] の順に選択します。

2　「アカウント選択」は任意のアカウントを選択し、「接続ユーザー ID」と「接続パスワード」を入力します。

3　その他を以下のように設定します。
・PPPoE サービス・タイプ→「Unnumbered IP」にします。
・ルータ IP →「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初の IP アドレスが入ります）。
・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」と入力します。
・DNS サーバ→「マニュアル設定」を選択し、「DNS サーバ 1」に「12.34.56.12」と入力します。

4　[設定] をクリックします。

5　設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。
・IP アドレス→「XXX. ○○○ . □□□ .115」（設定したい IP アドレス）
・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」
・デフォルトゲートウェイ→「XXX. ○○○ . □□□ .114」（ルータ IP と同じ）
・DNS サーバ→「12.34.56.12」

メモ　**TCP/IPの変更方法については、本書の「『かんたんスタート』CD-ROM を使わないでネットワーク設定するには」（P.38）をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。**

6　本商品の設定画面に再度アクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定（インターネット）」で設定した「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」（P.48）をご覧ください。

ダイナミックDNSを使用してURLで接続するには

ダイナミックDNSとは、インターネット側からドメインネーム（URL）を使用してバーチャル サーバなどに接続することができる機能です。ダイナミックDNSを使用するには、次の手順を行ってください。また、設定する場合には、本商品に接続したパソコンがインターネットに接続できることが必要となります。

1　設定画面を起動し、「WAN側設定（インターネット）」－「ダイナミックDNS」の順に選択します。

2　ダイナミックDNSサービスに未登録の場合は、「corede.net」（無料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）のいずれかをクリックし、ダイナミックDNSサービスに登録します。すでに「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」に登録されている場合は、登録せずに手順３へお進みください。

・本商品が対応するダイナミックDNSサービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetWork」、「@Net DDNS」のみとなります。
・「DynDNS.org」、「IvyNetWork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミックDNSサービスについては、弊社サポートの対象外となります。
・「@Net DDNS」は登録会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、あらかじめ加入者サポートページよりダイナミックDNSサービスをお申し込みください。

3　ダイナミックDNSサービスへの登録が完了したら、登録した「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」を控えておきます。

4　手順２の画面に戻って「ダイナミックDNS」から登録したダイナミックDNSサービス名を選択します。

5　「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」の各欄に、登録した情報を入力します。

6　設定が終了したら［設定］をクリックします。

7　画面上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は終了です。詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「ダイナミックDNS」（P.53）をご覧ください。

無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ・ネットワークスやイー・アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをお使いの場合は、本商品のルータ機能を無効にして無線アクセスポイントとしてお使いいただくことができます。

- ここでご紹介する手順を行なう前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信ができるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法については、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。
- 本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.220」に変更されます。
- 本商品のルータ機能を再び有効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.1」に変更されます。

●「かんたんスタート」CD-ROMを使って設定する場合

付属の「Q&A」で設定方法をご紹介しておりますので、付属の「Q&A」をご覧ください。

●設定画面で設定する場合

1　設定画面を起動し、「モード」を選択します。

2　「ルータ機能」を「無効」にします。

3　設定が終了したら［設定］をクリックします。

4　パソコンを再起動します。

以上で本商品の設定は終了です。

- 本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のWANポートはLANポートとして使用できます。
- 本商品のDHCPサーバ機能を使用してパソコンのIPアドレスを自動取得にしている場合、ルータ機能を無効にするとDHCPサーバの機能も停止しますので、IPアドレスの取得方法を変更する必要があります。

●ルータ機能解除スイッチを使う場合

1　設定画面を表示している場合は閉じます。

2　CG-WLBARGE背面のルータ機能解除スイッチを「解除（OFF)」にします。

3　ACアダプタを一度コンセントから抜き、挿し直します。

4　CG-WLBARGE前面のStatus LEDが消灯したことを確認します。

5　Webブラウザを起動し、インターネットが接続できていることを確認します。

- CG-WLBARGEの設定画面を表示したい場合は、ルータ機能解除スイッチを一時的に「変更可（ON)」に戻す必要があります。
- ルータ機能解除スイッチの切り替えを行った場合は、ルータの電源を入れ直してください。

本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名)、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「管理者ログイン名」、「管理者ログイン・パスワード」に設定するログイン名とパスワードを入力します。

3　「パスワードの確認」にもう一度新たに設定するパスワードを入力し、［設定］をクリックします。

4　画面上の［ログアウト］をクリックします。

最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社のホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。また、設定画面から最新のファームウェアダウンロードページに接続することもできます。詳しくは「PART2 設定画面を見てみよう」の「ファームウェア更新」（P.66）をご覧ください。

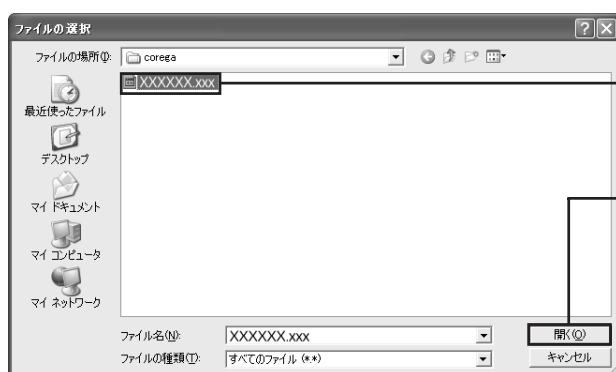
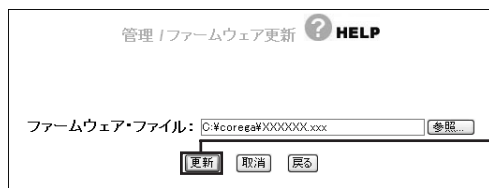
- 更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に「バックアップを取る」（P.34）をご覧になり、本商品の設定内容を控えておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

ここでは「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合を例として説明します。

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「ファームウェア更新」を選択します。

3　［参照］をクリックします。

4　「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、［開く］をクリックします。

5 ［更新］をクリックします。

6 次の画面が表示されますので、［OK］をクリックし、ファームウェアのアップデート処理を開始します。

7 アップデート処理が終了したら、Initスイッチを使って本商品を工場出荷時の状態に戻してください。
詳しくは「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」（P.37）をご覧ください。

注意 **ファームウェアのアップデート後に工場出荷時の状態に戻すには、設定画面からではなく必ず本商品背面の Init スイッチを使用してください。**

以上でファームウェアのアップデートは終了です。

メモ **設定内容を控えている場合は「元に戻す」（P.35）をご覧になり、設定内容を反映させてください。**

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品を工場出荷時の状態に戻してから、再度ファームウェアのアップデートを行ってください。

注意 **本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。**

本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

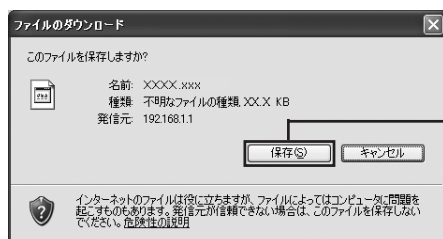
現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻すことができます。

バックアップしたファイルは、更新されたファームウェアのバージョンによって反映されない場合があります。

●バックアップを取る

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「設定保存」の欄の［保存］をクリックします。

3　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」のダイアログボックスが表示されますので、保存する場所を指定して［保存］をクリックし、ファイルを保存します。

以上で本商品の設定内容がバックアップされました。

●元に戻す

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「設定読込」の欄の［読込］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［参照］をクリックします。

4　「バックアップを取る」で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックします。

5　［読込］をクリックします。

6　「設定ファイルを読み込みます。よろしいですか？」と表示されますので、［OK］をクリックします。

以上で本商品の設定を元に戻すことができました。

本商品を再起動するには

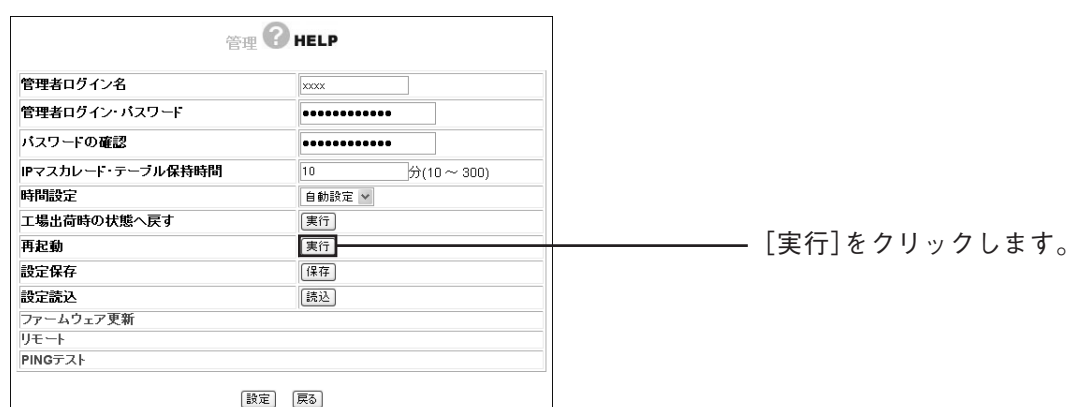
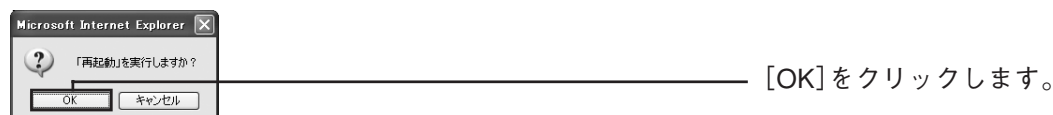
本商品を再起動するには、次のいずれかの手順を行います。本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

●電源を一度抜く

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから一度抜き、その後再度差し込みます。

●設定画面を使う

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「再起動」の欄の［実行］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

4　「本製品の再起動が終了しました」と表示されますので［OK］をクリックします。

本商品を工場出荷時の状態に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」（P.34）を実行し、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

●Initスイッチを使う

1　本商品の電源がオンの状態で、背面のInitスイッチをクリックします。Initスイッチはクリップなど硬くて細いもので押してください。

2　Init スイッチを 10 秒以上押し、Init スイッチを離します。

3　Status LED が点滅から点灯へ変わり、本商品が起動します。

4　Status LED が消灯すると本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

●設定画面を使う

1　設定画面を起動し、「管理」を選択します。

2　「工場出荷時の状態へ戻す」の欄の［実行］をクリックします。

3　「『工場出荷時の状態へ戻す』を実行しますか?」と表示されますので、［OK］をクリックすると本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

「かんたんスタート」CD-ROMを使わないでネットワーク設定するには

付属の「かんたんスタート」CD-ROMを使わずにネットワーク設定を行う場合は、接続するパソコンのネットワークの設定が次のようになっている必要があります。確認と設定の方法は、「設定画面を起動するには」（P.5）をご覧ください。

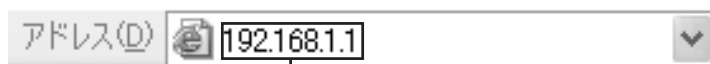
・TCP/IPの設定がIP自動取得になっていること。
・ネットワークアダプタが正常に動作していること。

■簡単な接続方法
インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダによって異なります。

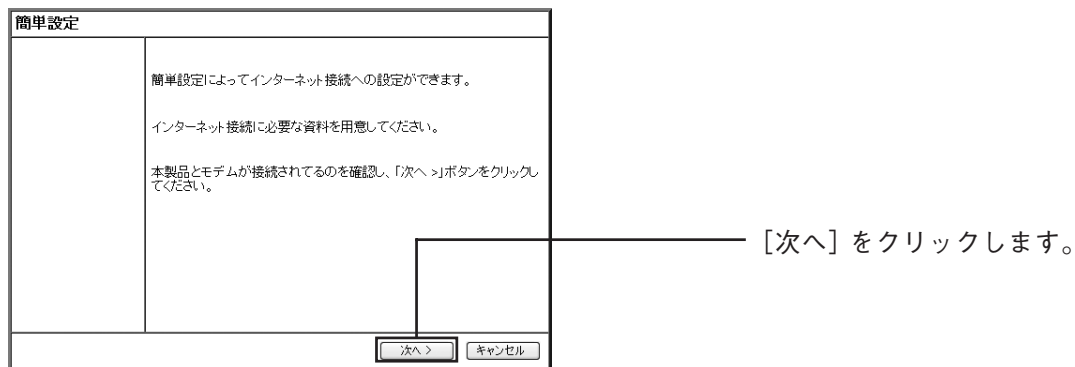
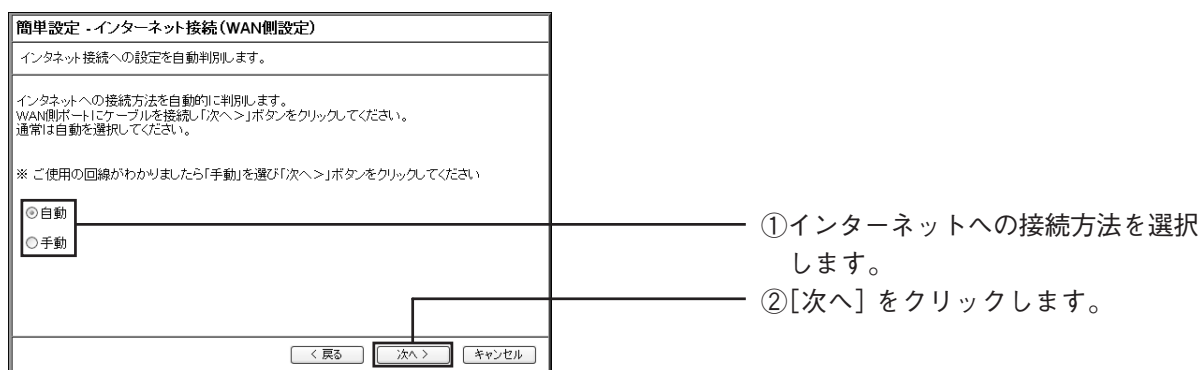
設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止・起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

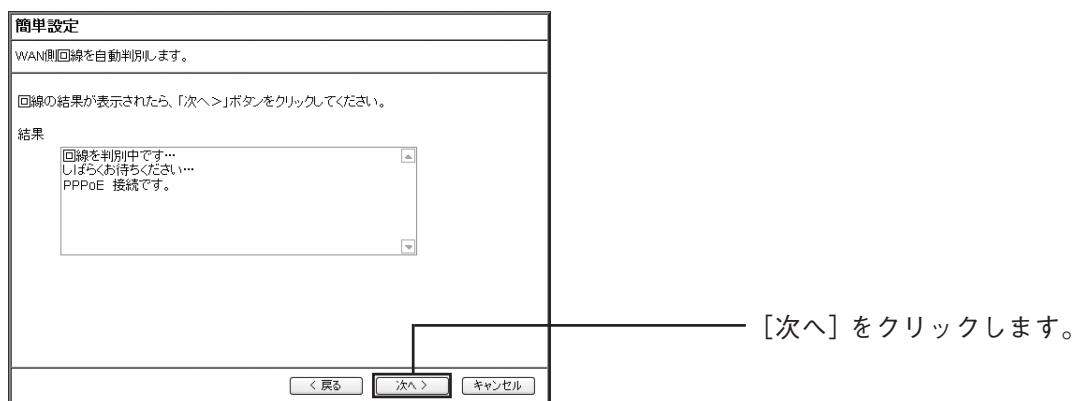
1　本商品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

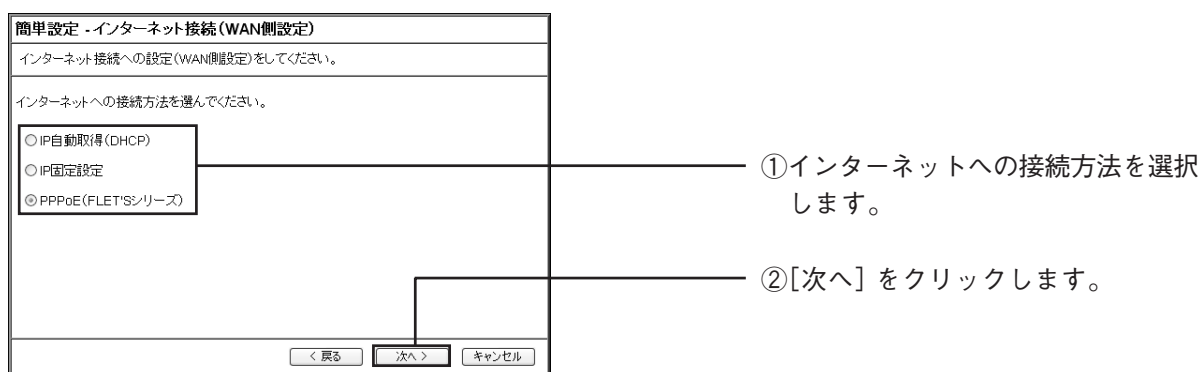
メモ　**このとき手順3の画面が表示された場合は、そのまま手順3へお進みください。**

2　Webブラウザのアドレス欄に表示されているアドレスをすべて削除してから「192.168.1.1」と入力し、「Enter」キーを押します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、パスワードは何も入力せずに［ログイン］をクリックします。

4　設定画面が表示されたら、左側のメニューから「簡単設定」を選択します。

5　「簡単設定」画面が表示されますので、[次へ］をクリックします。

6　「簡単設定・インターネット接続（WAN側設定）」が表示されたら、インターネットへの接続方法を選択し（通常は「自動」を選択します）、[次へ］をクリックします。

〈「自動」を選択した場合〉

「自動」を選択した場合は、WAN 側設定を自動で判別します。結果が表示されたら［次へ］をクリックしてください。

〈「手動」を選択した場合〉

「手動」を選択した場合は、インターネットへの接続タイプを選択し、[次へ］をクリックして該当する手順にしたがって設定を行ってください。

・IP自動取得（DHCP）ーYahoo! BB、CATVなど

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）からIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

・IP固定設定ー固定IPサービスなど

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）から固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

・PPPoE（FLET'Sシリーズ）ーフレッツ・ADSL、Bフレッツなど

PPPoE と呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダよりユーザ名とパスワードが割り当てられます。本商品ではプロバイダの情報を設定画面に登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

7　接続タイプに応じて各項目を設定します。次の接続方法ごとの説明をご覧いただき、設定を行ったらP.42 の手順５へお進みください。

〈「IP 自動取得（DHCP)」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。P.42の手順８に進んでください。

〈「IP 固定設定」の設定項目〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
①WAN側IPアドレス	12.34.56.78	プロバイダから指定された IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたゲートウェイの IP アドレスを入力します。
④DNS サーバ1	12.34.56.98	ローカルに DNS サーバを設置する場合、またはプロバイダから DNS サーバの IP アドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら［次へ］をクリックします。

〈「PPPoE（FLET'S シリーズ）」の場合〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

① 接続ユーザーID、接続パスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザーID	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された接続ユーザーIDを入力します（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）。
②接続パスワード	Password02	プロバイダより指定された接続パスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で25文字までです。 ※「" 」および「" 」以降に入力した文字は保存されません。
③パスワードの確認	Password02	②で入力したパスワードを確認のためにもう一度入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。

② フレッツ・スクウェアをご利用になる場合はご利用地域（「東日本」もしくは「西日本」）を、利用しない場合は「利用しない」を選択して［次へ］をクリックします。

8　次の画面が表示されますので、［保存］をクリックします。

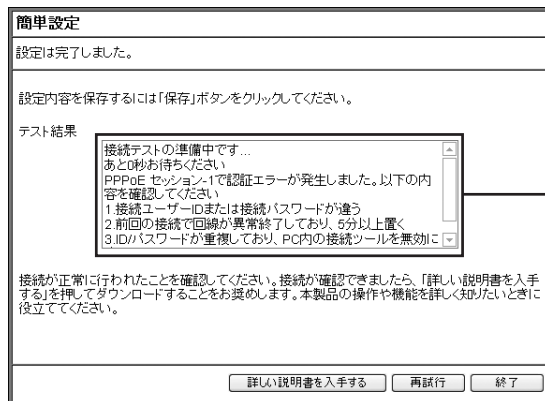
9　しばらくするとテスト結果が表示されるので、確認してください。パソコン、モデムと本商品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「OK」と表示されます。

上の画面のように表示されなかった場合は、手順5に戻り、再度テストを行ってください。それでも正常に終了しなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧ください。

10　接続が確認できましたら、［終了］をクリックしてWebブラウザを終了します。

- その他の設定項目については、「PART2 設定画面を見てみよう」（P.45）をご覧ください。本商品のより高度な使用方法については、「PART1 こんなときにはこの設定」（P.5）の各項目をご覧ください。
- PPPoEセッションを同時に2つ使用する（マルチPPPoE）場合には、「マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには」（P.27）をご覧ください。

■テストに失敗したときは

テスト終了後、テスト結果が次のように表示された場合は、メッセージの内容を確認して、再度ウィザードをやり直してください。

上の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

・モデムにルータ機能が搭載されている
　「ルータ機能解除スイッチを使う場合」（P.30）をご覧になり、本商品のルータ機能を解除してください。

・「接続ユーザー ID」「接続パスワード」に誤りがある
　プロバイダから送付された書類をご確認の上、入力しなおしてください。

・前回の接続時に異常終了した後、すぐに設定をしようとした
　５分以上経過しからもう一度接続しなおしてください。

・回線の専用接続ツールなどを使用してパソコンで設定している
　専用接続ツールをアンインストールしてください。

・モデムが正常に動作していない
　モデムの電源が切れていないか、ケーブルが外れているかなど正しく動作していることを確認してください。

●インターネットに接続してみよう

パソコンと本商品の設定が完了したら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer などの Web ブラウザを起動します。

2　Web ブラウザのアドレス入力欄に弊社ホームページアドレス「http://corega.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

注意　**ご契約のプロバイダによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合せください。**

インターネットに接続できなかった場合は、付属の冊子「Q&A」をご覧ください。

●他のパソコンを接続するときは

本商品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「設定画面を起動するには」(P.5)をご覧いただき、同じ手順でパソコンの設定を行い、本商品のLAN側ポートとパソコンをLANケーブルで接続してください。

無線での接続方法は、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法を行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows XP／2000の場合

1 「スタート」－「すべてのプログラム」(Windows 2000の場合は「プログラム」)－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

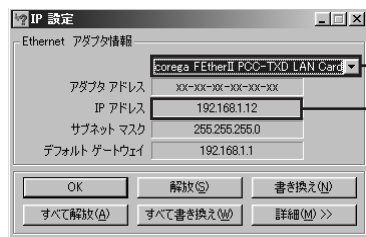
2 キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーをクリックします。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3 IPアドレスを確認します。

●Windows Me／98SEの場合

1 「スタート」－「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。

2 「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、[OK]をクリックします。

3 パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、[解放]をクリックした後、[書き換え]をクリックしてください。

PART 2

設定画面を見てみよう

このPARTでは、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定画面の全体構成について

設定画面の各機能

- この PART での説明は、例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- 画面にある［ログアウト］をクリックすると、設定画面を終了します。
- 各画面にある［HELP］をクリックすると説明が表示されます。
- 各画面の例は、PPPoE 接続の画面です。IP 自動取得接続や IP 固定接続では、画面が例と違う場合があります。
- 設定変更を行った場合は、各画面下にある［設定］、［更新］、［登録］のいずれかをクリックして、設定内容を保存してください。

●CG-WLBARGE（トップページ）

設定画面起動時の画面です。メニューリスト（画面左側）他、インターネットに接続後は［ユーザ登録］、［取扱説明書］、［Q and A］を利用することができます（画面右側）。

corega
株式会社 コレガ
インターネット :IP自動取得 通信中 状態
ネットワーク名(SSID):XXXXX 設定
セキュリティ :OPEN WEP 無効 設定
CG-WLBARGE 2006/XX/XX 15:15:23 Ver X.XX 最新ファームウェアの確認 ログアウト

CG-WLBARGE
モード
簡単設定
WAN側設定(インターネット)
ダイナミックDNS
パススルー
LAN側設定
ルータIP
DHCPサーバ
PCデータベース
無線アクセスポイント設定
802.11n/g/b 設定
802.11n/g/b セキュリティ設定
アクセス制限
セキュリティ設定
アクセス制限
コンテンツフィルタ
スケジュール
詳細設定
バーチャルサーバ
DMZ
UPnP
UPnP使用ポート
管理
ファームウェア更新
リモート
PINGテスト
Cable Test
ステータス
ログ表示
アタック ログ
DHCP ログ
システム ログ

インターネット接続状態: 正常

ユーザ登録
「ユーザ登録」を押すと、ユーザ登録をすることができます。ご購入いただいたコレガ製品の登録と、登録した製品のアップデートなどの情報の確認、またはキャンペーン情報をお知らせすることができます。ぜひご利用ください。

取扱説明書
「取扱説明書」を押すと、本製品の操作や機能を詳しく説明しているマニュアルをダウンロードすることができます。バーチャルサーバやダイナミックDNSなどの設定をするときはこちらをご覧ください。

Q and A
「Q and A」を押すと、よくあるご質問をご覧になることができます。コレガ製品の設定でお困りの場合には、こちらで解決方法を見つけることができます。

●モード

ここでは、「ルータ機能」または「無線アクセスポイント機能」のモード切替の設定をします。

項目名	内容
①ルータ機能	本商品をルータとして使うときは「有効」に設定します。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。
②無線アクセスポイント機能	本商品を無線アクセスポイントとして使うときは「無線アクセス有効」に設定します。 ※工場出荷時は「無線アクセス有効」に設定されています。

●簡単設定

簡単にインターネット接続の設定を行うことができます。設定の詳細については、「『かんたんスタート』CD-ROM を使わないでネットワーク設定するには」（P.38）をご覧ください。

●WAN側設定（インターネット）

WAN 側の PPPoE、IP 自動取得（DHCP）／IP 固定の設定を行います。設定変更をしたい項目を選択してください。

フレッツ・ADSL、B フレッツなど	PPPoE（次ページ）
Yahoo! BB、CATV など	IP 自動取得（DHCP）／IP 固定（P.52）

本商品は WAN 側の通信方式を選択できます（通常は変更する必要はありません）。変更する際には、次の画面と表をご覧いただき、お使いの環境に合わせて設定してください。

項目名	内容
①リンク速度	本商品とWAN側に接続する機器間のリンク速度を選択できます。
② MDI 切替	自動のみ（変更できません）

■ PPPoE…フレッツ・ADSL、B フレッツなど

PPPoE アカウント（インターネットに接続する際に必要な ID）の設定をします。

項目名	内容
① Account-1 ～ 5	アカウントの名称を表示します。
②セッション -1/-2 設定	WAN側のPPPoEの設定を行います。
③接続先設定 （セッション２のみ有効）	接続アカウントを使用する条件を設定します（P.51）。

・セッション -1/-2 設定

PPPoE を使用するときに設定します。設定前にプロバイダより指定された「接続ユーザー ID」、「接続パスワード」などをご確認ください。

〈セッション -1〉

項目名	内容
①セッション選択	P.48の画面を表示させる場合は「セッション-1」を選択します。
②［接続］	ここをクリックすると、接続します。
③［切断］	ここをクリックすると、切断します。
④アカウント選択	・５つのアカウントを登録できます（「セッション１」で使用したアカウントは「セッション２」では使用できません）。 ・アカウントを選択して、⑥～⑮までの設定を変更し、選択しているアカウントに保存できます。またアカウント名の右側にある［設定］をクリックすると名称を変更できます。
⑤MACアドレス	本商品のWAN側（インターネット側）MACアドレスを表示します。
⑥接続ユーザーID	プロバイダ（ISP）より指定されたアカウントの接続ユーザーIDを入力します。
⑦接続パスワード	プロバイダより指定されたアカウントの接続パスワードを入力します。
⑧接続パスワードの確認	確認のため、再度⑦で入力した接続パスワードを入力します。
⑨接続方法	■常時接続 常にインターネットへ接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ■トリガ接続 インターネットへの接続が発生したときに、自動的にPPPoE接続を行います。 ■手動接続 手動で接続しない限りインターネット接続を行いません。
⑩無通信時間監視	プロバイダのアクセスポイントへの接続後、通信を行わなくなってから自動切断までの時間（分）を入力します（トリガ接続、手動接続のときのみ）。
⑪MTU値	右側の「自動調整」にチェックを入れると、MTU値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと、576バイトから1492バイトの範囲で設定できます。
⑫PPPoEサービス・タイプ	使用するPPPoEのサービスタイプを選択してください。 ■PPPoE（セッション２設定可） 通常のマルチPPPoE接続で通信します。 ■Unnumbered IP（セッション２使用不可） 複数のグローバルIP※1を使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルータIPとサブネットマスクは、本商品のIPアドレスとして同じアドレスがWAN側／LAN側に設定されます。 ・グローバルIPをLAN側（パソコン側）で使用するときは、LAN側（パソコン側）でグローバルIPを固定で設定してください。 ■Unnumbered IP ＋ Private IP（セッション２使用不可） 複数のグローバルIPとプライベートIP※2を同時に使用することができます。 ・Unnumbered IP設定に対してルータIPを設定することで本商品のグローバルIPを使ってIPマスカレード※3機能を使用することができます。 ・グローバルIPをLAN側（パソコン側）で使用する場合は、LAN側（パソコン側）でグローバルIPを固定で設定してください。

※１：グローバルIP
インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。

※２：プライベートIP
イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。

※３：IPマスカレード
グローバルIPを企業などで１つ持ち、複数のパソコンで共有する機能です。企業内で持つプライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

項目名	内容
⑬ルータ IP	プロバイダから割り当てられた IP アドレスを入力してください（⑫で Unnumbered IP および Unnumbered IP ＋ Private IP を選択した時のみ）。
⑭サブネットマスク	プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力してください（⑫で Unnumbered IP および Unnumbered IP+Private IP を選択したときのみ）。
⑮ DNS サーバ	プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ■自動設定 DNS サーバの IP アドレスが自動割り当ての場合に選択します。 ※サーバの値は自動的に設定されます。 ■マニュアル設定 プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指定されている場合に選択し、IP アドレスを入力します。
⑯［設定］	設定変更をした際、保存するときにクリックします。
⑰［取消］	設定変更を取消したいとき、［設定］をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態までキャンセルすることができます。
⑱［戻る］	「PPPoE」画面に戻ります。

〈セッション -2〉

項目名	内容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション -2」を選択します。

※その他の項目はセッション 1 と同じ設定内容です。

・接続先設定

PPPoE 設定画面で登録した「セッション2」経由で接続するネットワークの設定を行います（例：B フレッツなど）。

1 「接続先設定（セッション２のみ有効）」をクリックします。

2 次の画面が表示されますので、各項目を設定してください。

項目名	内容
①接続アカウント	接続するアカウントを選択します。
②ルール選択	接続先に使用するルールを選択します。
③ドメイン名※	接続先のドメイン名を入力します。 例：www.corega.co.jp →「corega」 www.flets →「.flets/」
④ IP アドレス※	接続先の IP アドレスを入力します。 例：http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1 と 192.168.10.2 →「192.168.10.1-2」
⑤ネットワーク※	接続先のネットワークアドレスを入力します。 例：http://172.16.XX.XX →「172.16.0.0/16」 ftp://192.168.10.XX →「192.168.10.0/24」
⑥開始／終了ポート※	接続先の開始および終了ポート番号を入力します。 例：http://www.corega.co.jp →「80-80」 ftp://corega.co.jp →「20-21」
⑦プロトコル※	使用するプロトコルを選択します。

※「ルール選択」で選択した項目によっては入力できないことがあります。

■ IP 自動取得（DHCP）／IP 固定…Yahoo! BB、CATV など

IP アドレスの自動割り当てまたは、固定 IP を割り当てているプロバイダのみでご使用になれます。

項目名	内容
① MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②タイプ	IP アドレスなどを指定されていない場合は、「IP 自動取得（DHCP）を選択すると、プロバイダ（ISP）などから自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS アドレスなど、インターネットに必要な情報を取得します。 インターネット接続に必要な情報を指定された場合は、手動で設定します（次の項目は、「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。 ・ WAN 側 IP アドレス 　プロバイダ（ISP）から割り当てられた IP アドレスを入力します。 ・ サブネットマスク 　プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します。 ・ デフォルト・ゲートウェイ 　プロバイダから割り当てられたゲートウェイアドレスを入力します。
③ドメイン名	プロバイダから指定された場合、ドメイン名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
④コンピュータ名	プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑤ MTU 値	576 から 1500 までの範囲で割り当てることができます。接続環境に合わせて変更してください。通常は設定する必要がありません。
⑥ DNS サーバ※	プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ・ 自動設定 　DNS サーバの IP アドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。 ・ マニュアル設定 　プロバイダより DNS サーバの IP アドレスが指定されている場合に選択し、IP アドレスを「DNS サーバ 1」、「DNS サーバ 2」に入力します。

※　：DNS サーバ
インターネット上のパソコンの名前であるドメイン名を、住所にあたる IP アドレス（4 つの数字の列）に変換するコンピュータのことです。

■ダイナミックDNS（DDNS）

インターネット側からIPアドレスではなく、URLを使用してLAN内のバーチャルサーバに接続できるように設定できます。この機能を使用することによって、ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスにも対応します。

項目名	内容
①ダイナミック DNS	ご利用になる DNS サービスを選択します。
②ログイン名	DNS サービスに登録したログイン名を入力します。
③ログインパスワード	DNS サービスに登録したパスワードを入力します。
④ドメイン名	DNS サービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。
⑤ IP チェック時間	取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を指定時間で確認します。

PPPoE モードを選択しているときは、アカウントごとに設定できる項目があります。

■パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

項目名	内容
①ダイレクト PPPoE	PPPoE パススルーの有効／無効を選択します。
② VPN パススルー	VPN パススルーの有効／無効を選択します。
③ IPv6 ブリッジ	IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

●LAN側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。

■ルータ IP

LAN 側の IP アドレス、サブネットマスク、URL ホームを設定します。LAN 側の IP アドレスを変更したい場合に設定してください。

項目名	内容
① MAC アドレス	本商品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。
② LAN 側 IP アドレス※1	本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。
③サブネットマスク※2	本商品の LAN インタフェース※3のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。
④ URL ホーム	設定した URL を Web ブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面のトップページを表示させることができます。 ・ アドレスには「.」（ドット）を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。 ・「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。 ※工場出荷時は「corega.home」に設定されています。

※ 1：IP アドレス
　　TCP/IP プロトコルを使ったネットワークで、コンピュータを識別するためのアドレスのことです。
※ 2：サブネットマスク
　　IP アドレスの先頭部分となり、IP アドレスのネットワーク・アドレス部を増やす方法です。
※ 3：インタフェース
　　2 つのものの間で情報のやりとりを仲介するものです。

■ DHCP サーバ／ PC データベース

・DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更する場合に各項目の設定をします。

項目名	内容
① DHCP サーバ	DHCP サーバの有効／無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンに IP アドレスを割り振ります。
②リース期限継続方法	DHCP サーバでリースされる IP アドレスのリース期限継続方法を選択します。期限指定／無期限の指定ができます。
③リース期限	DHCP サーバでリースされる IP アドレスのリース期限を指定します。※②を期限指定に指定している場合に設定できます。
④ DHCP 開始アドレス	DHCP サーバでリース開始の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.21」で設定されています。
⑤ DHCP 終了アドレス	DHCP サーバでリース終了の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.50」で設定されています。

・PC データベース

本商品に接続するクライアントパソコンの IP アドレスを登録することができます。

この操作は PC データベースのリストに表示されていない場合に行ってください。

項目名	内容
①パソコン名	クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。
② IP アドレス	IP アドレスの取得方法を選択してます。 ■自動取得（DHCP クライアント） パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IP アドレスを自動的に取得」）に設定されている場合、本商品はパソコンに IP アドレスを提供します。IP アドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していた後で再接続した場合に変わることがあります。 ■固定取得（DHCP クライアント） パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IP アドレスを自動的に取得」）に設定されている場合、毎回決まった IP アドレスを取得したいときに選択します。最後の空欄に 1 ～ 254 までの任意の数字を入力してください。 ■固定設定（DHCP 範囲以外） パソコンが固定 IP アドレスを使用している場合に選択し、IP アドレスを入力してください。 ※「接続タイプ」は、有線接続しているパソコンは「LAN」を、無線接続しているパソコンは「WLAN」を選択してください。
③ MAC アドレス	MAC アドレスに関するオプションを選択します。 ■自動検索（パソコンが接続されている状態） 本商品が通信しているパソコンの MAC アドレスを自動取得します。パソコンが LAN に接続されている状態でお使いください。 ■ MAC アドレスは パソコンの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは「ハードウェアアドレス」や「物理アドレス」、または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品はパソコンを個別に認識するために MAC アドレスを使用しますので、入力欄を空白にしたままでの使用はできません。
④［PC データ追加］	本商品のリストに新しいパソコンを加えます。MAC アドレス③の「自動検索」が選択されている場合、パソコンに「Ping」を送信して取得した MAC アドレスを登録します。
⑤［データの削除］	画面上で入力した値をクリアすることができます。
⑥［戻る］	「PC データベース」（上の画面）に戻ります。

■無線アクセスポイント設定
無線 LAN のチャンネルや、セキュリティなどの詳細な設定を行います。

・802.11n/g/b 設定
IEEE802.11n/g/b 通信の設定を行います。

項目名	内容
①ネットワーク名（SSID）	無線 LAN に接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続する全てのパソコン（無線 LAN アダプタ）に同じ名前を設定してください。 ※工場出荷時の SSID は本商品底面の「無線アクセスポイント名」に記載されています。
②モード	「802.11n/g」に設定すると 802.11n または 802.11g を使用することができます。802.11b を使用する場合は、「802.11n/g/b」に設定してください。 ※工場出荷時は「802.11n/g/b」に設定されています。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）を選択できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
④ IPv6 マルチキャスト通信	IPv6 マルチキャスト通信サービス（4th メディアなど）を STB と接続して使用したい時は「有効」を選択します。
⑤ステルス AP	「有効」に設定すると、無線 LAN アダプタを持つパソコンから本商品の SSID を検索されないようにできます。また SSID を「ANY」や空白にしているパソコン（無線 LAN アダプタ）からのアクセスを拒否することができます。
⑥電波強度	本商品の電波出力の強度を設定します。
⑦ビーコン間隔	アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を設定します。 ※工場出荷時は「100」に設定されています。通常は変更する必要

・802.11n/g/b セキュリティ設定

IEEE802.11n/g/b のセキュリティの設定を行います。

項目名	内容
①認証方式	WEP を使用したい時は「Open System」または「Shared Key」を、WPA を使用したい時は「WPA/WPA2-PSK」または「WPA/WPA2-EAP」を、WPA2 だけで使用する場合は「WPA2-PSK」または「WPA2-EAP」を選択します。 ※工場出荷時は「Open System」に設定されています。
②暗号方式	本商品の暗号方式を設定します。①で選択した認証方式によって、選択できる暗号方式も変わります。 WEP ： 通信内容を暗号化することにより、通信の解読を防ぎます。 AES ： 米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIP より強固な暗号化を施すことが可能です。 TKIP ：一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。
③暗号化	WEPの暗号強度を64／128／152 Bitのいずれかに選択できます。
④ WEP キー	WEPキー（暗号キー）を入力し、デフォルトキー1〜4から1つを選択します。キー1〜キー4のそれぞれに、設定する暗号キーを直接入力してください。
⑤ WPA 共有キー	WPA/WPA2-PSK と WPA2-PSK を選択した場合に「ASCII 文字（8〜63 文字）」または「16 進数（64 文字）」を選択し、初回アクセス時に使用する任意の暗号キーを入力します。
⑥ DTIM	DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を設定します。 ※工場出荷時は「1」に設定されています（通常は変更する必要はありません）。
⑦更新間隔	暗号キーを更新する間隔を秒単位で設定します。
⑧セキュリティ サーバ	認証方式で WAP2-EAP または WPA/WPA2-EAP を使用する場合に RADIUS サーバの設定をします。

・アクセス制限

接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

項目名	内容
①無線端末間通信	無線端末（PC などのクライアント）同士の通信を制限します。 有効：無線端末間の通信を有効にします。 無効：無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。
②無線－有線間 端末通信	有線端末と無線端末同士の通信を制限します。 有効：有線無線端末と無線端末間の通信を有効にします。 無線：有線無線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。
③ MAC アドレス フィルタリング	画面上のリストから選択したクライアント（MAC アドレス）のみ接続を許可します。 有効：選択したクライアント（MAC アドレス）の接続を許可します。

●セキュリティ

項目名	内容
①ステルスモード	「無効」を選択すると、インターネット（WAN）側から PING リクエスト（通信確認リクエスト）があった場合に応答します。「有効」を選択すると PING に応答しなくなります。 ※ PING に応答することによって、インターネット側から本商品の存在を確認できます。相手によってはお互いの存在を確認しながらインターネット接続を始めるものもありますので、その際には「無効」を選択してください。
②ファイアウォール	ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度に影響がでる場合があります。

■アクセス制限

LANに接続されているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定することができます。

項目名	内容
①制限する IP アドレス	アクセスを制限したいパソコンの IP アドレスを含んだ、IP アドレスの範囲を登録します。
②制限するサービス	アクセス制限をするサービスを、登録されているサービス一覧の中から指定して制限をかけることができます。
③プロトコル	制限するサービスが、登録されているサービス一覧にない場合は②で「ユーザ定義」を選択し、プロトコルを選択します。
④制限するポート範囲	制限するサービスが、登録されているサービス一覧にない場合は②で「ユーザ定義」を選択すると、任意のポートを指定してアクセス制限をすることができます。
⑤スケジューリング（スケジュール設定を使用します）	「スケジュール」で指定した時間にアクセス制限をかけることができます。詳細は「スケジュール」（P.62）をご覧ください。

■コンテンツフィルタ
ネットスター株式会社の「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」を使用して、好ましくないサイトへの接続を自動的にブロックすることができます。本機能の紹介および設定方法は、付属の「コンテンツフィルタリングで安心インターネット」をご覧ください。

・URL 直接入力によるアクセス機能
接続制限をしたいURL を入力し、[登録] をクリックすると、フィルタリストにURL が追加されます。文字列を入力すると、その文字列を含む URL がブロックされます。

項目名	内容
①説明	アクセス制限の説明をつけることができます。
②制限する IP アドレス	アクセスを制限したいパソコンの IP アドレスを含んだ、IP アドレスの範囲を登録します。
③ URL または キーワード	アクセスを制限したい URL やキーワードを登録します。 例：violence

■スケジュール
ここで設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。設定した時間帯は「アクセス制限」で指定して実行してください。

項目名	内容
①名前	スケジュールに任意の名前を付けることができます。
②コメント	任意の説明文を付けることができます。
③スケジュール	ここで時間帯を設定します。時間は 24 時間表記で入力してください。 ■曜日 制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力してください。 ■開始時間 制限を開始する時間を入力してください。 ■終了時間 制限を終了する時間を入力してください。

●詳細設定

■バーチャルサーバ

インターネット（WAN）側からLAN側のパソコンに接続できるように設定できます。設定するときは、次の表示された画面で設定を行ってください。

項目名	内容
①接続先	サーバとなるパソコンを選択します。
②サービス	使用するサービスを選択します。
③ポート範囲	使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」を選択すると、WAN側とLAN側のポート範囲が入力できます。
④プロトコル	使用するプロトコルを設定します。
⑤備考	サーバの説明を入力します。 ※空欄のままでも使用できます。

- ①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PCデータベース」（P.55）をご覧ください。
- パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
- ダイナミックDNS（DDNS）を使用することで、より簡単にWAN側からLAN側のサーバに接続することができます。
- 本商品のWAN側IPアドレスとポート番号を指定したアクセスは、バーチャルサーバ機能によって指定したパソコンにします。同じLAN内で同種類のサーバを使用する場合は、ポート番号が重複しないようにしてください。

■ DMZ

インターネット（WAN）側から、LAN側のパソコンに接続できるように設定できます。「バーチャルサーバ」（P.63）を使って接続できない場合に使用してください。

項目名	内容
① DMZ ホスト	インターネットに対してすべての IP サービスを有効とする場合に設定します。DMZ 機能を使用したいパソコンを選択してください。 例：サーバを公開したり、ネットワークゲームなどを使用する場合

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

メモ

ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単に WAN 側から LAN 側のサーバに接続することができます。

■ UPnP

UPnP 機能を使用する場合に、この項目の設定を行います。

項目名	内容
① UPnP 使用ポート	ここをクリックすると UPnP で使用しているポートを確認できます。
② UPnP を使用する	UPnP の有効／無効を選択します。 ※ UPnP 機能は Windows XP でご使用になれます。
③アプリケーションで WAN IP を選択する	UPnP 対応アプリケーションで WAN IP を選択する場合に使用します。 ※「PPPoE」での接続設定されている時のみ表示されます。
④ WAN 側 IP のセッションを選択する	手動で UPnP を使用する WAN IP（セッション）を選択する場合に使用します。 ※「PPPoE」での接続設定されている時のみ表示されます。
⑤ WAN の切断機能を有効にする	WAN の切断機能の有効／無効を選択します。有効にすると UPnP 機能を使用して WAN（インターネット側）を切断することができます。 ※「PPPoE」での接続設定されている時のみ表示されます。

・UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

●管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定することができます。

項目名	内容
①管理者ログイン名	本商品の管理者用のログイン名を変更します。設定以降はこのログイン名で設定を行います。 ※工場出荷時は「root」に設定されています。
②管理者ログイン・パスワード	本商品の管理者用のパスワードを設定します。空欄に設定した場合はパスワードの入力は必要ありません。 ※工場出荷時は設定されていません。
③パスワードの確認	確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。
④ IP マスカレード・テーブル保持時間	IP マスカレード・テーブルの保持時間を設定します。設定時間を長くすることで、FTP サーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。
⑤時間設定	自動設定にすると、NTP サーバを検出して自動で時刻を設定します。 手動設定にすると、「年／月／日」の順に設定します。
⑥工場出荷時の状態へ戻す	本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時の状態に戻します。 ※実行する前に設定内容は控えておくことをおすすめします。
⑦再起動	本商品を再起動します。
⑧設定保存	現在の設定内容をファイルに保存することができます。
⑨設定読込	⑧で保存した設定内容を読込みます。

■ファームウェア更新

弊社のホームページからダウンロードした最新のファームウェアを本商品に読み込ませることができます。

項目名	内容
①[最新ファームウェアの確認]	クリックすると、今お使いのファームウェアが最新のものかどうかを表示します。最新でない場合は、[ファームウェアダウンロードページへ] をクリックすると、最新のファームウェアに更新できるダウンロードページに自動的に接続されます。
②[参照]	ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択するときにクリックします。
③[ファームウェア更新]	ファームウェアの更新を開始します。
④[取消]	ファームウェアの更新を中断します。

・更新中は絶対に本商品の電源を切らないでください。
・更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

■リモート

インターネット(WAN)側から本商品の設定をする場合に、あらかじめこの設定をしておきます。

項目名	内容
①リモート設定	リモート設定を有効/無効に設定します。有効にするとWAN側から本商品の設定を可能にします。
②ポート	1~9600の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は8080です。

・リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。
・インターネット側(WAN側)から接続する際は、次の例のようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。

例:http://XX.XX.XX.XX.XX : □□

ポート番号

本商品のWAN側のIPアドレス(「ステータス」(P.68)よりご確認ください)

・ダイナミックDNS(DDNS)を使用することで、より簡単にWAN側からLAN側のサーバに接続することができます。

■ PING テスト

本商品に接続しているほかのパソコンが、通信可能な状態かどうか確認するためのテストをします。

項目名	内容
①宛先アドレス	テストを実行するパソコンの IP アドレスを入力します。
②［実行］	①で IP アドレスを入力後、［実行］をクリックすると PING テストを開始します。テスト結果は「実行結果」の欄に表示されます。

■ Cable Test

使用しているポートのリンク速度を表示します。

項目名	内容
①［詳細情報］	ケーブルテストの詳しい内容が表示されます。

●ステータス

ステータス HELP

ファームウェア・バージョン	Ver X:XX	
システム稼動時間	25 分 14 秒	
LAN状態	MACアドレス :	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	サブネットマスク :	255.255.255.0
	IPアドレス :	192.168.1.1
	DHCP :	有効
	DHCP開始アドレス :	192.168.1.21
	DHCP終了アドレス :	192.168.1.50
無線状態	MACアドレス :	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	モード :	802.11n/g/b
	セキュリティ :	OPEN WEP無効
	チャンネル :	4
	ネットワーク名（SSID） :	XXXXX
	状態 :	無線アクセス有効
WAN状態	MACアドレス :	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	WAN :	IP自動取得(DHCP)
	接続時間 :	24 分 19 秒
	リース期限 :	3 日 0 時間 0 分 0 秒
	ドメイン名 :	XX
	ホスト名 :	corega.home
	IPアドレス :	172.16.0.52
	サブネットマスク :	255.255.0.0
	ゲートウェイ :	172.16.0.18
	DNSサーバ1 :	172.16.0.18
	DNSサーバ2 :	XX

開放　再取得　更新

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。［更新］をクリックすることで最新の情報に書き換えられます。

・アタック ログ

DoS アタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※ DoS アタック
　インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの 1 つです。

・DHCP ログ

本商品の DHCP サーバ機能の稼動状況を表示します。

・システムログ

本商品へのアクセス履歴などを表示します。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の MAC アドレスは本体底面に記載されております。
LAN 側の MAC アドレスについては、設定画面の「ステータス」（P.68）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため商品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

2006 年 11 月　初版